

# 『国際開発研究フォーラム』執筆・投稿規程

図書・紀要編集委員会

2017年7月26日改正

2019年6月26日改正

2019年11月27日改正

2020年3月4日改正

2020年5月27日改正

2021年4月7日改正

2023年2月3日改正

## 1. はじめに

- (1) 本誌は国際開発及び国際協力の分野における学術的研究に寄与することを目的とする。掲載の区分は1) 研究論文、2) 研究ノート、3) 書評及び4) 調査・実習報告の4つとする。
- (2) 本誌に原稿を投稿できる者は、1) 国際開発研究科（以下「GSID」）の教員および学生、2) 外国人・国内客員研究員等のGSID関係者及び3) 本誌の図書・紀要編集委員会が投稿を依頼した者とする。
- (3) 投稿者は、以下に定める執筆及び投稿要領に従わなければならない。
- (4) 研究論文及び研究ノートは投稿者が行っている研究に関し論理的・実証的に独創性・新規性を有するもので、研究ノートは研究成果の迅速な出版が求められる中間報告的なものである。研究論文及び研究ノートは、匿名の2名による審査を経て、図書・紀要編集委員会が掲載の可否を決定する。
- (5) 書評は公刊された学術著書・論文を対象とし、その主要な内容に関し投稿者が評価を行うものである。書評については原則として審査を実施しないが、図書・紀要編集委員会が修正、変更等を要請することがある。書評の投稿を希望する者は、執筆に先立ち、対象となる学術著書・論文（以下「学術著書等」という。）を図書・紀要編集委員会に提出し、本誌における書評としてふさわしいかどうかの審査を経て、執筆を行うものとする。書評が対象とする学術著書等は、発行後おおむね1年以内のものとする。書評中の学術著書等の要約は、5～8割程度とする。評価部分には、長所と短所が書かれていること。結論にはより広い文脈における学術著書等の位置付けが述べられていることが望ましい。
- (6) 調査・実習報告は、投稿者が行った国内外の研究調査又は実習の成果に関する報告である。調査・実習報告は、調査または実習完了後1年を経過しないものとする。調査・実習報告は、GSID基幹教員の単著又は共著に限る。調査・実習報告については原則として審査を実施しないが、図書・紀要編集委員会が修正、変更等を要請することがある。調査・実習報告は、調査・実習の目的、期間及び場所が明示され、調査・実習の結果とその目的に矛盾がないこと。

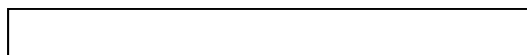
- (7) 著作権は著作者に帰属するが、著作物の発行に関する権利は GSID が有する。なお、著作物は、名古屋大学学術機関リポジトリで登録公開する。

## 2. 執筆要領

- (1) 研究論文の長さは、和文原稿にあつては 20,000 字以内を原則とし、英文原稿にあつては 8,000 語を目安とする。和文における字数及び英文における語数は、いずれの場合においても、図表、注記及び参考文献を含むものとする。和文又は英文の原稿、いずれの場合においても、英文で 200 語程度の要約を付けるものとする。研究ノートにあつては和文の場合は 15,000 字以内、英文の場合は 6,000 語以内、書評と調査・実習報告にあつては和文の場合は 10,000 字以内、英文の場合は 4,000 語以内を原則とする。当該制限を大幅に超過する場合は、理由のいかんにかかわらず、図書・紀要編集委員会が字数又は語数の削減を要請することがある。
- (2) 使用言語は、原則として日本語又は英語とする。それ以外の言語、特殊な文字、記号等の使用に関しては、図書・紀要編集委員会に相談すること。
- (3) 段組は一段組を原則とするが、二段組を希望する場合は図書・紀要編集委員会に事前に相談すること。図書・紀要編集委員会がその理由を正当であると判断した場合は、二段組での執筆を認める。ただし、図書・紀要編集委員会は一段組での執筆を推奨する。英文の段落の文頭は、3 文字分のインデントとする。段落間の幅は、段落内の行間と同様、すなわち 1.5 行分とする。
- (4) 一頁目に論文のタイトルを表示し、二行の空白を入れた後に要旨と本文を同一頁から続けるものとする。
- (5) 本文中の節題番号はアラビア数字を使用し、細かく区分する場合は次の形式によるものとする。  
1, 1.1, 1.1.1, (1).
- (6) すべての図表は以下の例示のとおり通し番号、タイトル、注 (note)、出所 (source) で構成する。図表のタイトルは上部中央揃えとする。英文原稿の場合は、図表のタイトルはキャピタライゼーションルールに基づく。

### 和文原稿の場合

図 1 ベトナムにおける直接投資の推移



(注)

(出所)

表 1 世界の主要な地域統合

(注)

(出所)

英文原稿の場合

Figure 1 FDI to Vietnam

Note:

Source:

Table 1 Regional Integration

Note:

Source:

(7) 図表および方程式の字数または語数への換算

図表が次の時の換算例

1 ページの 3 分の 1 程度（12 行相当）を占める図表及び数式にあつては、和文原稿は 450 字、英文原稿は 180 語とみなす。

1 ページの 2 分の 1 程度（18 行相当）を占めるものにあつては、和文原稿は 650 字、英文原稿は 270 語とみなす。

1 ページを占めるものにあつては、和文原稿は 1,300 字、英文原稿は 540 語とみなす。

(8) 本文又は注における文献引用の際は、必要に応じページ数を特定すること。ただし、引用符を伴った直接引用の場合は、必ずページ数を特定する。

例：文中表示の場合

松下（1997：56-58）は、… 大野・藤野（1990：131-136）によれば、…

Kuznets（1953a:18）によれば、… Krueger and Bhagwati（1973:23）は、…

例：文末表示の場合

…という指摘がある（青木 1999：25）。

…と考えられる（Taylor and Wilson 1989:145-150）。

(9) すべての注は文末注とし、参考文献の手前にリスト化する。文末中の番号は右肩につける。

例：（和文）…と考えられる<sup>1</sup>。

（英文）…in this model.<sup>1</sup>

(10) 参考文献リストは、以下のとおり作成する。（和文の場合）

- ・日本語で著された文献の著者名をアルファベット表記に置き換え、外国語の文献と合わせた上で、筆頭著者の姓に基づきアルファベット順に並べる。

例：Escobar, Arturo. 1995. …

葉山アツコ. 2010. …

Korten, Frances F. 1994. …

- ・同一年に同一人による著作が複数ある場合には、(1999a, 1999b) のように区別する。
- ・2行以上にわたる場合は、2行目以降を全角1文字（英数2文字）落として記述する。
- ・インターネットから引用した資料は、著者名、発行年、サイトタイトル、ページタイトル、URL 及び最終アクセス日を記載する。

日本語単行本：著者. 発行年. 『書名』出版社名.

例：鶴見和子・川田侃(編). 1989. 『内発的発展論』東京大学出版会.

日本語雑誌論文：著者. 発行年. 「題名」『雑誌名』巻(号)：頁 - 頁.

例：岡部達味. 1997. 「国際政治と中国外交」『国際政治』114：42-56.

例：吉村良一. 2001. 「大気汚染公害訴訟における因果関係論—尼崎・名古屋南部訴訟判決を中心に」『法律時報』73(3)：26-31.

外国語単行本：著者. 発行年. 書名(斜体). 出版地：出版社名.

例：Fawcett, Louise; and Andrew Hurrell eds. 1995. *Regionalism in World Politics*.  
New York: Oxford University Press.

例：Liker, Jeffrey K. 2004. *The Toyota Way*. New York: McGraw-Hill.

外国語雑誌論文：著者. 発行年. 論文名. *雑誌名(斜体)*. 巻数(号数): 頁 - 頁.

例：Rosenau, James N. 1995. Governance in the Twenty-first Century. *Global Governance*. 1(1): 13-43.

インターネット資料：著者. 発行年. ウェブサイトタイトル. ページタイトル. URL. 最終アクセス日

例：United Nations. 2022. United Nations. Announcement: 2030 Agenda Partnership Accelerator 2022 End of Year Report now available.

<https://sdgs.un.org/news/announcement-2030-agenda-partnership-accelerator-2022-end-year-report-now-available-49333>. Accessed on January 25, 2023.

### 3. 投稿要領

- (1) GSID ホームページ内投稿申込フォームから電子投稿を行う。図書・紀要編集委員会は、投稿申込フォームの記載事項に基づき、投稿者に校正等の連絡を行う。本誌に発表する論文は、未発表のものに限る。他誌で審査中又は掲載予定のものは二重投稿とみなし、本誌への投稿を認めない。再投稿の場合も同様の手続きを必要とする。
- (2) 投稿原稿は無記名とする。投稿者を暗示する表現を本文、注その他において使用してはならず、投稿者の匿名性を保持しなければならない。原稿の形式は、MS-Word 形式 (.doc または.docx) とすること。
- (3) GSID の学生が投稿する場合、初回・再投稿にかかわらず以下三点を必要とする。
  - (ア) 主指導教員に投稿の許可を得ていること。
  - (イ) 【Turnitin による剽窃チェックの結果】を投稿申込フォームにアップロードすること。
  - (ウ) 英語の論文は、事前に有料版 Grammarly を使用して英文チェックを済ませること。
- (4) 改訂を伴う再投稿が認められた場合には、改訂を反映させた原稿と変更履歴を記録した原稿の両方を提出すること。
- (5) 初校のみを著者校正とし、その時点での大幅な加筆・修正は原則として認めない。
- (6) 投稿は年間を通して随時受け付けるが、図書・紀要編集委員会は投稿者が希望する号への掲載については保証しない。
- (7) 図書・紀要編集委員会は、原稿料の支払い及び掲載料の徴収は行わない。抜き刷りを希望する場合は、著者はあらかじめ申し込みを行い、実費を支払う。

### 4. 審査

- (1) 図書・紀要編集委員会は、投稿の内容，テーマ等を考慮し，2名の審査者を選任する。
- (2) 2名の審査者は、投稿論文の採択の可否，修正箇所，コメント等を所定の審査結果用紙に記入し，審査開始から原則として1か月以内に図書・紀要編集委員会に提出する。
- (3) 審査者は匿名とする。
- (4) 審査基準はA～Dの4段階とする。2名ともにAまたはB以上の判定でない場合に掲載不可とする。
- (5) 審査結果がCの場合は，審査者のコメントに従い改訂したあと，同一タイトルで再投稿することができる。ただし，同一審査者の場合にあつてはC判定が連続3回，審査者が変更された場合にあつてはC判定が連続4回となった時点で，D判定とする。
- (6) 審査結果がDの場合，同一投稿者が再投稿しようとするときは，別タイトル及び別構成とし，当該判定が通知された日から5か月を経なければ再投稿することができない。
- (7) 図書・紀要編集委員会は，投稿論文を「研究論文」から「研究ノート」及び「調査・実習報告」への変更は行わない。
- (8) 図書・紀要編集委員会のメンバーから投稿があつた場合でも，審査者の匿名性は保持される。この場合において，投稿者は，審査者選定に関与しない。審査結果は，他の委員が本人に通知する。

投稿先：〒464-8601 名古屋市千種区不老町

名古屋大学大学院国際開発研究科 図書・紀要編集委員会

Email: [gsidbp 【@】 gsid.nagoya-u.ac.jp](mailto:gsidbp@gsid.nagoya-u.ac.jp)

WEB: <https://www4.gsid.nagoya-u.ac.jp/ja/research/publications/>